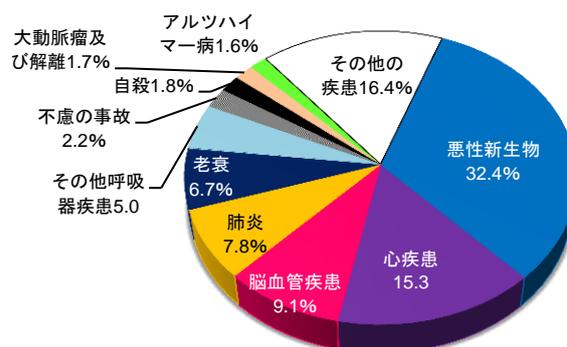


若林区の健康課題

1 若林区の主要死因別死亡者数の割合

若林区の平成 29 年度の総死亡数は 1,091 人である。そのうち「悪性新生物」「心疾患」「脳血管疾患」による死亡者数は合わせて 619 人となり、全体の 56.8%を占める。

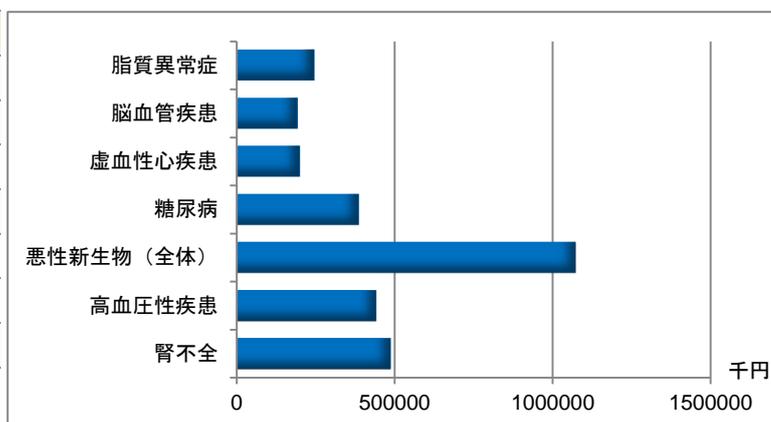


資料：仙台市保健統計年報

2 若林区の仙台市国民健康保険加入者の医療費の状況

【年間医療費ランキング（トップ 10）】 【疾患別医療費】

順位	疾患名
1	腎不全
2	高血圧性疾患
3	その他の悪性新生物<腫瘍>
4	糖尿病
5	その他の心疾患
6	その他の消化器系の疾患
7	脂質異常症
8	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害
9	その他の神経系の疾患
10	虚血性心疾患



資料：平成 28 年度レセプト

資料：平成 28 年度レセプト（中分類）

【生活習慣病関連疾患で治療している人の割合（地域毎）】

	糖尿病	高血圧	脂質異常症	虚血性心疾患	脳卒中
六郷	36.4	55.9	58.2	17.2	22.9
大和蒲町	29.4	47.3	43.3	11.7	13.0
五橋	27.6	33.3	36.5	9.9	12.7
榴岡	27.4	34.1	34.9	8.5	9.1
遠見塚	26.6	41.4	44.3	10.9	12.7
七郷	24.0	35.1	34.3	8.4	10.3
河原町	23.0	35.4	32.7	9.4	11.5
沖野	21.1	38.0	35.1	10.9	11.9

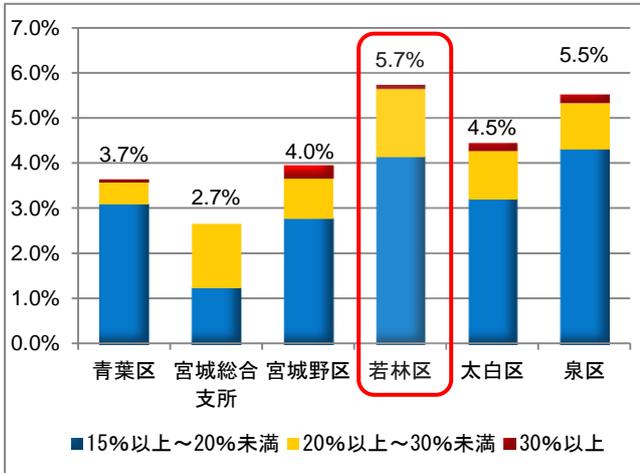
資料：平成 28 年度レセプト（中分類）

年間医療費の総額を疾患別で見ると、生活習慣病に関連する腎不全、高血圧性疾患、糖尿病、脂質異常症、虚血性心疾患が上位に入っている。悪性新生物全体を合計して比較すると医療費としては最も高い。生活習慣病関連疾患の治療件数の割合を地区毎に見ると、六郷地区はいずれの疾患においても、治療をしている人の割合が高い。

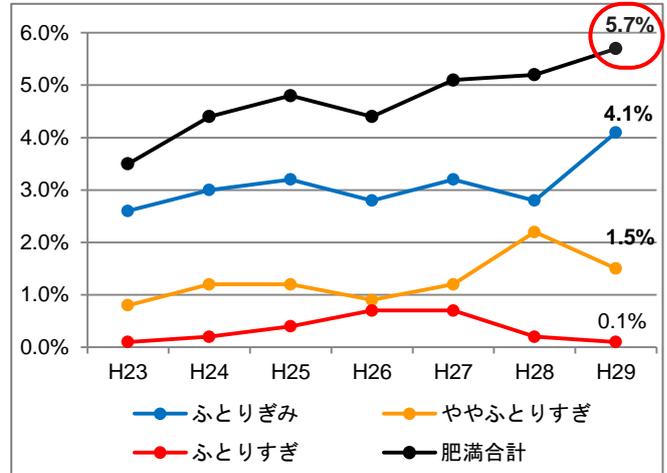
3 ライフステージ毎の健康実態

(1) 乳幼児期（概ね 0～5 歳）

① 肥満の子供の割合（3 歳児健診）



② 肥満・やせの経年変化（3 歳児健診）

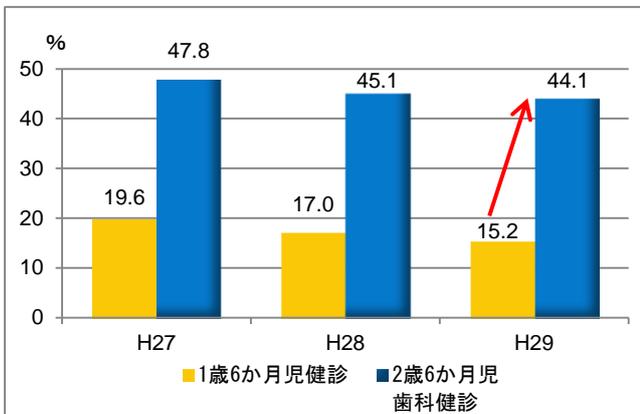


幼児の肥満の出現率を 3 歳児健診の結果から見ると、若林区は市内で最も高く 5.7%である。また肥満合計の推移を H23 年度から見ると、上昇傾向にある。

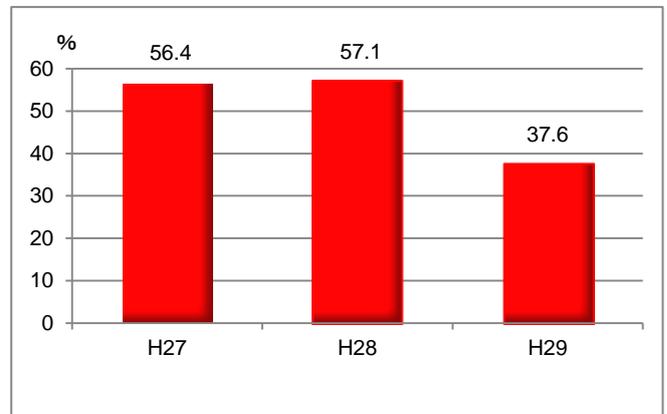
肥満児に共通する生活習慣上の課題としては、おやつや飲み物の量、内容、頻度があげられている。

(図③、④)

③ 甘味飲料を摂取する子供の割合

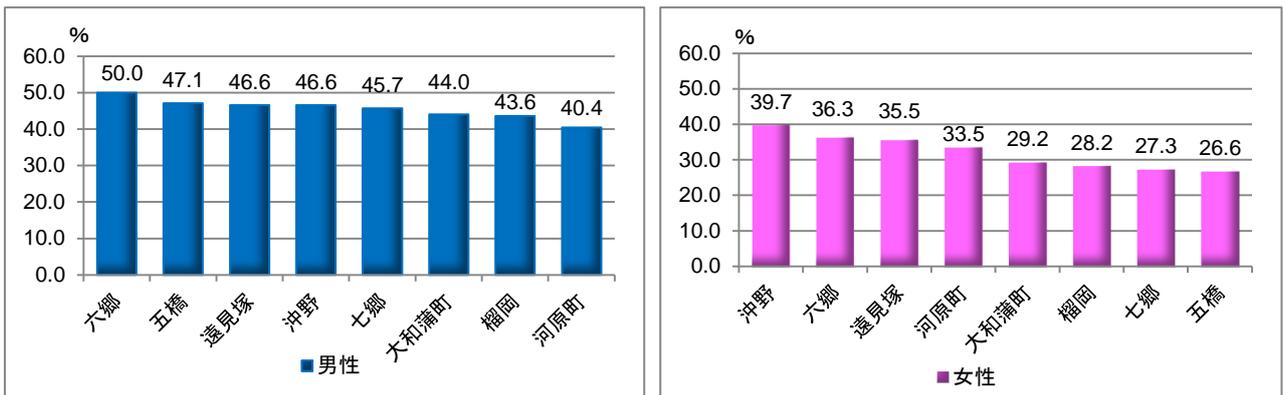


④ 甘味食品を摂取する子供の割合



甘味飲料の摂取状況の推移を見ると、1 歳 6 か月児健診、2 歳 6 か月児歯科健診においてもわずかに減少傾向にある。しかし、この 1 年で摂取する機会のある子供の割合が急激に増えている。また、甘味食品についても、2 歳 6 か月の時点ですでに 37.6%の子供が摂取している。このような習慣はその後のむし歯のリスクを引き上げるだけでなく、将来の肥満等生活習慣病への影響も懸念されている。

【血圧（区内地区毎の比較）】



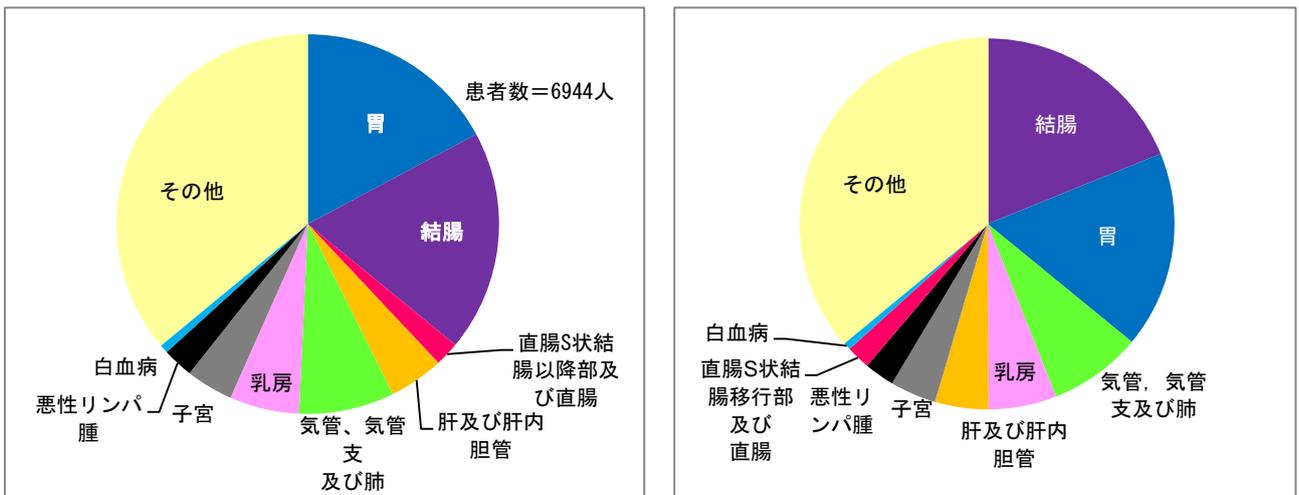
地区毎では、六郷地区、沖野地区が高い傾向にある。

特に六郷地区の男性は HbA1c、血圧に異常があった者の割合は区内で最も高く、メタボリックシンドロームにおいては区内 3 位である。女性は HbA1c に異常があった者の割合は区内で最も高く、メタボリックシンドローム及び血圧有所見者の割合は区内 2 位である。

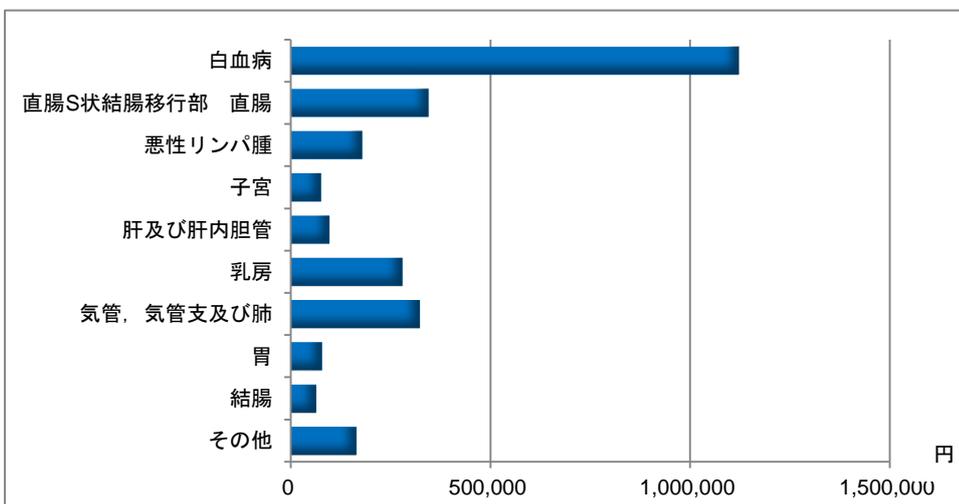
② 悪性新生物による患者の割合及び医療費の状況（仙台市国民健康保険加入者 H28 年度レセプト）

【部位別悪性新生物による患者の割合】

【部位別悪性新生物による医療費の割合】



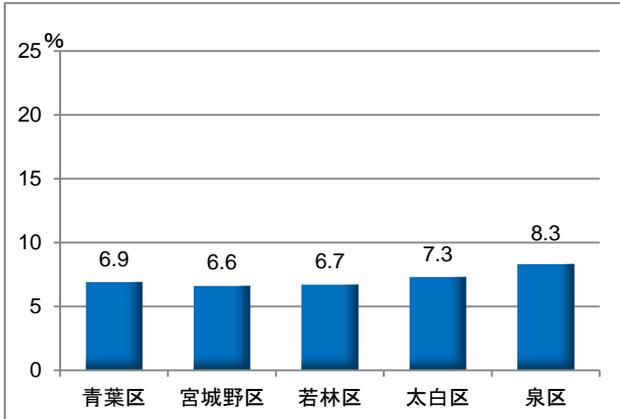
【悪性新生物による 1 人当たり医療費】



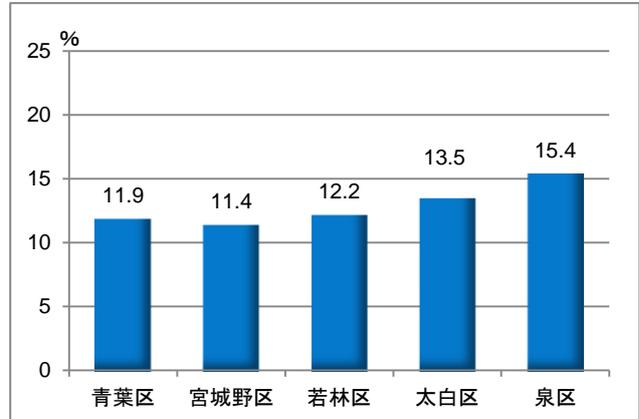
悪性新生物で治療している患者の割合及び、医療費総額を部位別で見ると、胃がん、大腸がんが多い。
1人当たりの医療費は白血病が最も多く、大腸、肺がん、気管支・肺、乳房に次ぐ。

③ がん検診受診率（H29年度 仙台市市民健診）

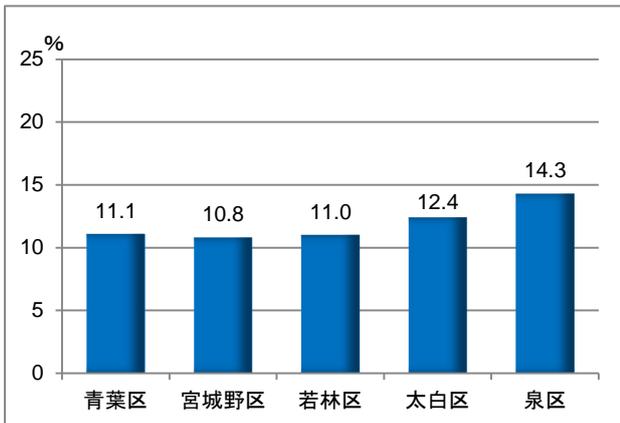
【胃がん検診】



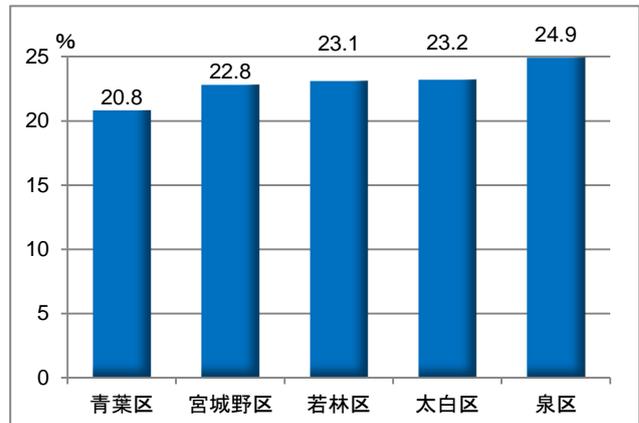
【大腸がん検診】



【肺がん検診】



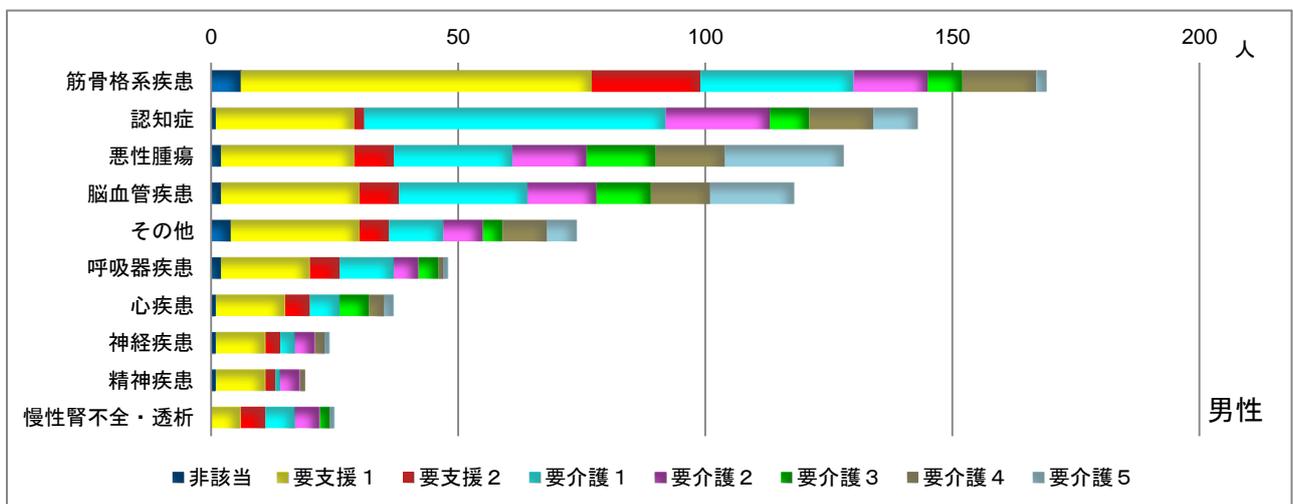
【乳がん検診】

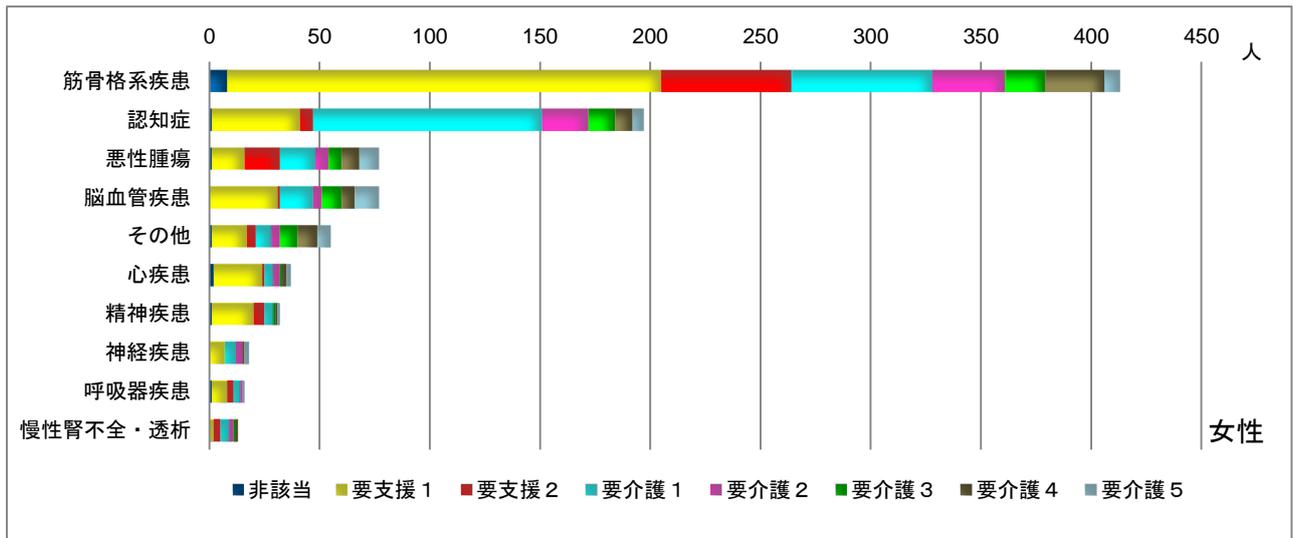


市民健診によるがん検診受診率を見ると、泉区の受診率が最も高い。若林区は他区と比較しても高い方ではなく、宮城野区、青葉区と同程度の受診率である。

(4) 高齢期（概ね 65 歳以上）

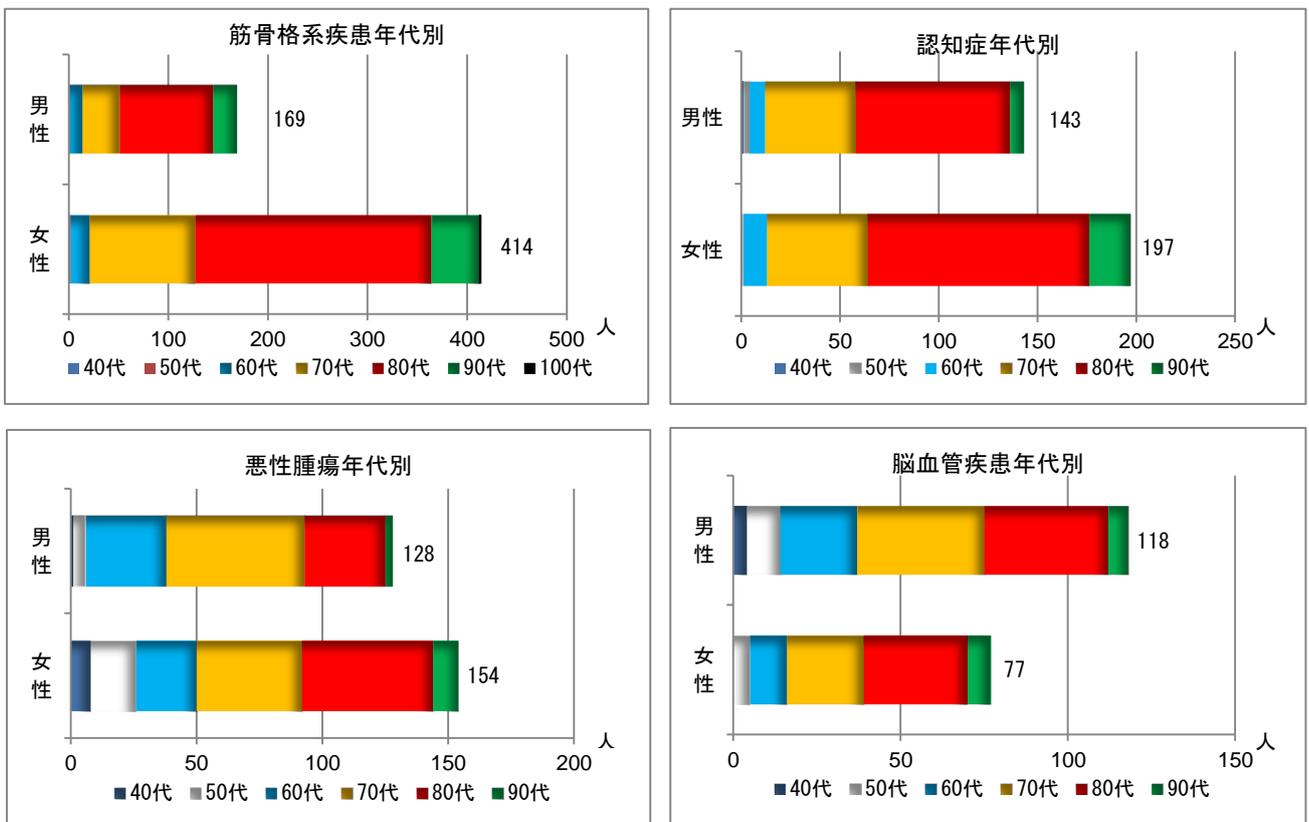
① 主要疾患別新規要介護認定者数(H29.4～H30.7) 男性 785名 女性 935名 病名は重複あり





要介護認定者の原因疾患別では、男女とも筋骨格系疾患、次いで認知症が多い。特徴としては、女性は圧倒的に筋骨格系疾患が多く、男性は、悪性腫瘍、脳血管疾患の割合が多くなっている。介護度別では、筋骨格系疾患は要支援1、認知症では要介護1など、介護度が低い割合が多く、悪性腫瘍と脳血管疾患は、要介護5等の介護度が高い認定者が多い。年代別では、筋骨格系疾患、認知症は80代が多い一方で、悪性腫瘍や脳血管疾患は60代、70代の占める割合が多く、この傾向は男性で顕著である。

② 疾患毎の要介護認定者の年齢構成



特に男性において、悪性腫瘍、脳血管疾患は、介護を受ける年代が若く、かつ介護度が高い傾向がある。これは、当区での悪性腫瘍の死因が首位であることに加え、在宅療養を選択する担癌患者や末期癌患者が増加していることも関係している可能性がある。